

## 「国家の品格」を読んで

初夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年末に出版以来200万部を突破した「国家の品格」を読みました。私はもともと、明治維新から戦争に負けるまでの日本人が最高にカッコ良いと思っていますので(ピークは日露戦争)大変共感いたしました。



代表取締役社長 吉田治伸

ブックレビューには、「論理」より「情緒」、「英語」より「国語」、「民主主義」より「武士道精神」、「誇り」と「自信」を取り戻す日本論と書いてあります。

日本人は古来、自然を愛し、弱いものを助け、卑怯を憎み、お金を不浄な物として扱ってまいりました。そしてそれは、「理屈」でなく「ダメなものはダメ」という精神的な物が前提になっています。思い起こすと私の小中学校の時代、弱い者いじめをするガキ大将に立ち向かう優等生はクラスに一人はいました。今でもその時の彼ら(彼女ら)の行動には敬意を持って思い出します。現場訪問した時、そんな責任者(平等で弱いものを助ける)に巡り会うと大変すがすがしい思いになります。ホリエモンに象徴される理屈とお金がまかり通るなか、忘れていた日本論は大変参考になりました。

さて、「国家の品格」にとって「武士道精神」が重要な位置にいましたが、我々のサービスにとって重要な物かというと……「ありがとう」ではないでしょうか？

先日、レジで顔も見ずに「ありがとう」というレジ係に腹が立ちましたが、似たような心のないサービスを当社の社員もしていないでしょうか？

お客様に心から「ありがとう」と言われるサービスを心がけたいものです。